

## 8．自殺の見聞

### 8-1 入所者の自殺の見聞【問 14-1、聞き取り 14-1】

ここでは「園内で自殺の話を見聞きしたことがありますか」という伝聞の形で尋ねている。これは「あなたは自殺しようと思いましたが」という質問をすることによる、調査協力者への二次被害を避けるためである。

園内での自殺については、「たびたびあった」が42.3%（295人）、「たまにはあった」が48.4%（337人）で、この問いの回答者のうち約9割が見聞きしたと答えている。なお「見聞きしたことはない」は9.3%（65人）であった（単純集計49）。

いつ頃まで自殺を見聞きしたことがあるかという問いに対しては、「戦前」「終戦直後」「最近はない」というものから「2、3年前」、「2003年」というものまでであった。年代の回答があったものについては、1930年代から2003年まですべての時期にわたっている。昔は比較的若くて元気な人の自殺が目立ったと語られているが、入所者が高齢化した近年の例についても、高齢者の自殺が依然として語られている。

・若い20代が何回かあった。昔はハンセンを苦しめて亡くなった。方法は首つりが一番多い。部屋の中でしたら御飯を持ってきた職が気付いたり、探しに行ったり。この頃は職が毎朝チェックする。（食事もってくる職が外出なら届出するからわかる）5～6年前もセンターの人（70代）が自分の病気を苦しめて。自分も元気で手足も不自由もなかった。丈夫な人ほど急にそうなると思う。目の見えない人が一番かわいそう。目が見れば今はTVで世界がみられるのだから。（1949年入所 男性）

・2003年、80歳過ぎの人が1人亡くなられた。少なくなったと思うがたまにある。（1940年入所 男性）

#### 自殺の状況

自殺の見聞について語った人の多くは、自殺の状況（首つり、入水、井戸への投身、崖からの投身、刃物、焼身、農薬、青酸カリなど）について、具体的に語っている。

・1943年、男性50代、身体の一部を刃物で切って死亡（トイレが血みどろだったとのこと）。1944年、男性50代、首つり。1945年、男性50代、井戸に投身。以上聞いた話である。（1948年入所 男性）

・息子が青酸カリを持ってきて、数日いて、父親に勧めて飲ませたが、悲惨に思った。（1945年入所 男性）

・病気を苦しめ、仲の良かった人たちも数人自殺してしまった。中には農薬を飲んだ人もいた。毎年2、3人くらいいた。（1945年入所 男性）

・ガソリンをかぶって沖縄出身の人が自殺したのが20年前位。最近はない。昭和28年に

入所後たびたびあった。（1953年入所 男性）

・2～3年前、女性がダンスの中で首をくくっていた。自治会の仕事をしていたので、消灯後「役職員集合！」という放送があったら自殺だとわかった。何回も懐中電灯を持って捜しに行った。亡くなるときは、皆故郷の方を向いて、海へ入ったり首をくくったりしていた。（1961年入所 男性）

・ずいぶんあり、目の当たりにしたこともありました。空地为テニスコートに作りかえた。テニスコートの白線を石灰でひいていた時に使っていたロープがお昼ごはんを食べている間になくなり、その間にロープで首をつってしまった人がいました。あとで「ロープを片付けておけばよかった」という話を仲間同士でした。皆苦しかったんだと思います。自分も自殺したいと思ったことはあったが、家族への迷惑を考えたえてきたが、耐えられない人もいたのだと思います。（1949年入所 男性）

・投身自殺など多数あった。また、逃げようとして潮にのまれ亡くなった人もいる。私の友人が首つりをして自殺した。私が23才くらいの時だった。びっくりした。一番最近では6年位前にもあった。ハンセン病を患いここへ来たものは、一度は死を考えたんじゃないでしょうか。（1940年入所 男性）

### 推測される自殺の動機

病苦のなかでは、特に神経痛のつらさや、うつ傾向が指摘されている。

・1959年、岡山にいた頃、若い人の自殺が多かった。いろいろつらかったらうなという気持ちになった。神経痛の痛みは自分もそうだったがつらすぎて死にたくなる時もしょ中あった。麻薬も効かずやり場がなくなって死ぬ人が多かった。（1952年入所 男性）

・駿河だけでも何十人も自殺している。昭和30年代が多かった。自分の友人が10年前（1993年）に行方不明になった。皆で捜したが、見つからない。本病、合併症（神経痛）に耐えられなくなって。遺体は出て来ない。（1959年入所 男性）

・昭和30年代には、頻繁にあったが、以降はたまにあった。つい最近にも高齢者が自殺した。自分はDDSの副作用でウツ的になったときに死にたいと思ったことがあったが、実際自殺するところまでは行動できなかった。自分は自殺した死体も見たが、自分もやりたいとは思わなかった。（1952年入所 男性）

・つい最近も一人、うつ病だったが、自殺があった。何でああいう人が死ぬのかなと思った。（1962年入所 男性）

肉親との確執も挙げられる。

・親、兄弟から迫害をうけて。皆の為にいなくなればいいという思いで、親をうらんで、自殺した。本当に気の毒であった。（1945年入所 男性）

・50年位前ある入園者の所に子供がきて「結婚ができないから、オヤジ死んでくれ」と言った。その人は園内のお宮で首をつっていた。（1951年入所 男性）

・一時帰省で親のところに帰ったとき「おまえのことはもうあきらめた。いなかったこと思うことにした」と親から言われた人が自殺したと聞いたことがある。（1940年入所 女性）

長年住み慣れた部屋を明け渡すつらさを指摘する人もいる。とりわけ夫婦舎に居住しており、高齢で配偶者を亡くした場合の、転居の精神的・肉体的つらさは、視力障害の場合等の負担も含めて、一般にも語られるところであろう。

・昭和40年ごろ、多磨全生園で。配偶者が亡くなって、夫婦舎にいた高齢の人、49日すぎたら部屋をかわらなくてはならない。嫌が応でも出なくてはならなくて、自分だけ「いたい」ということ、そんなことすら取りあげてもらえない状況だったから...。（1950年入所 女性）

その他金銭トラブル、恋愛のもつれなどもあったという。

・入所して2~3年のうちに2人あった。ひとは、借金苦（株か相場で）、もうひとは自殺の理由は不明。（1967年入所 男性）

・昭和25年頃には自分の女房が取られたことが原因で自殺した人がいた。その他、蚊帳の中で首を切って自殺した人やお腹に赤ちゃんがいるが夫が他の女性と恋愛関係をもったことを苦し、クレゾールを飲んで自殺を図った人もいる。（1942年入所 男性）

### 自殺への思い

実際に自殺を試みたという人もいた。

・事業に失敗し、酒におぼれるようになった。酒を飲んでも苦しく、納骨堂の裏のガケから酒の酔いに任せ、自ら飛び込んだ。朝目が覚めると、木にひっかかっていた。子供もいるからと思いとどまり、何とかなるだろうと思った。母親へ、この年になり、ハンセン病で苦しむのなら、幼いころ南洋から帰って来るとき（氏は親子で戦時中南洋から戻ってきた）海にすててくれなかったかと言うこともあった。（1972年入所 男性）

また、自殺への共感を示す人が少なくない。

・自分が立ちあったのは3回ある。いつ頃ということはわからないが、ついこの間もおじ

いさんが死んだ。ワシも死にたいと思うことはあった。つらいと、どうでもええわ、と思うことがある。何のために生きているのかと、死んだほうがいいと思うことがある。今日まで生きてきたのは勇気がなかった。そこまでふみこめなかつただけ。(1957年入所 男性)

・その人の健康状態や精神状態から考えて「かえって楽になってよかったね」と遺体に向かって話しかけることもあった。(1960年入所 男性)

一方で知り合いがなくなっていくことへのやりきれなさ、無念さを語る人びともいる。

・楽泉園では、松丘に比べて自殺者が多かった。特に、達者の人が多かった。気持ちはたまらない。なぜの連発。やりきれない!(1948年入所 男性)

・1955年頃まで。首つり自殺が多かったと思う。「～がない!」ということで、山中へ捜索に行かされた事もあった。どちらかという年齢の人に自殺する人が多かったものと思う。「どうして自殺などしてしまったのか、何も死んでしまわなくてもよかったのに」と、やはり自殺を問の当たりにして、つらい気持になった。(1943年入所 男性)

・昨年、知り合いの女性が自殺したことがあった。くやしかった。いろいろ障害ができて辛いと思うが、もう少しがんばって欲しかった。相談してほしかった。(1943年入所 男性)

・病気があったとはいえ、なぜ自殺するのか、かなり勇気がいること。どんな悩みがあったのかわからないが、打ち明けられる人がいたなら。せっかくもらった命なのに。案外元氣なんが命を絶つ。今年に入って自殺した人については、なぜ今のような良い時代になって、なぜ?余命も少ないのになぜ?と。(1952年入所 女性)

### 自殺の隠蔽へのうたがい

療養所が自殺の事実を隠しているのではないかと疑う人もいる。

・自殺したとなると警察に届け出しないといけないので病死にしたのではないか。(1948年入所 男性)

・全生園の中で死んだ場合、すべて病棟にはこぼれている。自殺か事故死か病死かはっきりしていない場合、警察が来て調べるが(ここでは)そういうことがない。きちんと報告していないのではないかと思う。かくすのはよくないことだと思う。(1951年入所 男性)

## 8-2 家族や親族の自殺の見聞【聞き取り 14-1】

園内での自殺の見聞に比べて答えていない、あるいは「聞いたことがない」、「知らない」、「わからない」という回答も多い。しかし、自分の身内の体験も含めて語っておられる人

もある。

### 自分の親族の自殺

- ・園内結婚をしている妻の両親が自殺した。（1955年入所 男性）
- ・すぐ上の姉は奉公先から嫁いだが、ノイローゼになって自殺してしまった。そのときは詳しい理由は聞かなかったが、今思うと父や自分の病気のことでは何か辛い思いをしたのではなかったかと思う。（1948年入所 男性）
- ・父が農薬を飲んで自殺した。（1958年入所 女性）
- ・夫の家族。弟が発病したことを四女（姉）が苦にして自殺。（1959年入所 女性）
- ・自分の妹も26才の時に、自殺した。うつ病もあったが、自分が兄として何もできなかったというのは、今でも負担感がある。金曜日の夜に服毒自殺していたが、医者が見誤って「今の子は、こういういたずらする時期があるから、もう少し放っておけば目がさめる」と言った。（1937年入所 男性）
- ・実母は4人兄弟の長女。両親と兄弟たちは「この病気は遺伝病。今生きているものが亡くなった時点で、この家系はつぶそう。（子供を作るのはやめよう）」という話をした。実母はそれをきいたのではないだろうか。1938年7月1日井戸に飛び込んで自殺した。（1950年入所 男性）

### 自分以外の人親族の自殺

- ・入所中の姉を訪ねて弟が療養所に来た。弟は悩みの相談を聞いてもらおうとやってきた。それまでは音信だけで姉の顔を見ていなかった。来て、姉の顔を見て、声をかけられたとたんすぐその弟は何も言わずに帰ったが、どっかでその弟さんは自殺した。（1938年入所 女性）
- ・ さんの姉が自殺。結婚がきまっていたのに（結納まで交わしていた）、結婚破棄で自殺。（1955年入所 男性）
- ・親がハンセン病を患った場合、子供も一緒に療養所に連れて来て、職員区域で職員の家族と共に生活していたが、その中の差別もあったし、社会に出てからの差別もひどく、それを苦に自殺したという話は聞いた事がある。（1952年入所 男性）
- ・金銭的なこと、兄弟のことで死んだという人もある。子どもが療養所に入り、村八分にされて自殺したという話は何回も聞いた。（1957年入所 男性）
- ・ハンセン病の子供が結婚できなかったので世間の目を気にして、母親が自殺したと聞い

た事がある。（1959年入所 男性）

・何回か聞いた事はある。ある人の姉が婚家先で遺伝と言われ、なじられ、それを苦に自殺した等2人程聞いた事がある。（1938年入所 男性）

・友達が地蔵を作ったのでわけを聞いてみると、末娘が自殺したとのこと。父がハンセン病で入所していることが娘の嫁先に知れて、家をだされてしまった。娘は自殺してしまったとの事である。（1949年入所 男性）

・療養所に面会に来られた身内が(母親) 首吊り自殺をした。当時息子の墓参りに来られた後、面会室で首吊り自殺をした事。息子が死んだ後か、入所時かは定かでない。（1957年入所 男性）

・隣に住んでいた人が社会復帰したが、その人の姉が、今までのハンセンによる兄弟のかかわりがなんだったのだろうというジレンマから悩み自殺したと聞いている。（1953年入所 男性）

山梨県下で1951年（昭和26年）1月に起きた一家心中事件は入所者に強烈な印象を与えたようで、複数の人が語っている。

・具体的な例では、昭和26年山梨県の一家9人（両親2人、7人の子。6人が女）。末子の長男がハンセン病と言われた。納得できずあちこちの病院へかかった。病院より届けが出て保健所が消毒に行くことになった。確認しているからと何回か消毒に来る日を延期してもらっていた。ついに消毒に来る前の晩、8人が死んだ。「伝染病なら仕方ないが、遺伝病ということなら、他に知られたら、ここでは生きていけない」と書き置きを残して。それを帰ってきて見た男の子も自殺した。（1937年入所 男性）

・新聞で騒がれた。昭和20年代、山梨県で長男が病気と言われて一家全員が心中した。自分が病気だったので覚えている。病気が治ると言われ始めた頃だった。ハンセン病といういやな、人に嫌われる病気が出たことで心中したのではないか。（1962年入所 男性）

親族の苦しみを思い、病気の自分を責める人がいる。

・話を聞いたことはある。自分たちがこんな病気になり多分に迷惑をかけているが自殺するような人が出ないことを一番心配しております。大きな顔してこのように療養所に入って暮らしているが、家族や親戚のことを思うときには自分のせいで申し訳ないと自責の念でいっぱいです。（1946年入所 女性）